

げんき

第四回施設・講師懇談会

有意義な意見交換

今後も継続開催を

平成十九年十一月二十八日（水）および三十日（金）の二日間にわたり、八王子センター元氣主催の第四回施設・講師懇談会が、大横福祉センターの「竹の間」と「末広の間」で開催されました。今回は、講師・利用者・コーディネーターの交流を図り、自由に話し合う場を提供することを目標に、セレモニイ部分は極力圧縮し、グループ毎の情報交換を中心に展開されました。

一、参加人員

参加人員は、二八日が五名でした。案内を差し上げたのは、来賓十二名、高齢となり、合計で約百名の参加施設・包括支援センター加をいただきました。その内訳は、来賓（市役所関係、公的機関等）十一名、高齢者施設・包括支援センター十九名、講師延べ二十九名、コーディネーター延べ四十

名でした。案内を差し上げたのは、来賓十二名、高齢者施設・包括支援センター百五ヶ所、講師百十三名、コーディネーター六十名で

あり、来賓の皆様には、ほぼ全員にご出席をいただきました。講師の皆様からは、

八王子市高齢者活動
コーディネートセンター
八王子センター元氣
八王子市大横町11-35
電話&FAX
042-627-9179

運営日 月・水・金曜日
午前10時～午後4時

約半数の方からご返事をいただき、さらにその半数の方にご出席をいただいたこととなります。コーディネーターのうち十四名の皆さんが二日とも参加してくれました。

二、当日の進行

司会者（二八日は山田徹さん、三十日は松尾禎夫さん）の開会宣言にはじまり、



グループごとに情報交換

鹿又ワカ代表の代表挨拶、司会者による来賓、高齢者施設・包括支援センター、講師の紹介までの一時間強のセレモニイの後、グループに分かれての情報交換となりました。

八人前後の各グループは講師の分野ごとになっており、ある程度話題が絞られるようになっていましたが、

それでもかなり広範囲な意見交換が行われました。

多数の公的機関が参加したこともあり、サービスの現状説明が詳しく行われていました。講師からは、高齢者施設ばかりではなく、サタデイスクール等でも活動してみたいとの希望もありました。施設側から、いくつかのグループで、具体的にサービス提供の相談があり、今後の講師紹介へと進展する可能性もつかがわれました。

しかしながら、まとめを含めて二時間弱では、自己紹介と現在の

活動状況説明が精一杯であり、時間不足の感じは否めませんでした。

三十日のしめくりに、桜美林大学瀬沼教授から、「開催できることが素晴らしい、今後も続けてほしい」とのコメントをいただきました。

三、今後の課題

今回の施設へのご案内は、利用者開拓活動と連携して行ないました。八王子センター元氣の説明パンフレットと合わせて持参し説明することで、すでにお付き合いのある施設とは一層関係が深まるとともに、今後お付き合いをしたい施設とはお互いに理解しあうことができたと思っております。

毎回言われる時間不足については、開催日、運営方法も含めて検討し、より有意義な企画にしたいと考えております。（柴田忠寛）

講師紹介シリーズ(第五回)

平井 幸雄(たかお)さん

笑いのネットワークづくり

平井幸雄さんは、昨年「秋祭り!たのしみまショウ」に出演し、落語で笑わせてくれました。

わたしの第二の人生のテーマは「笑い」です。現役時代は企業の総務・管理部門、研修部門にいて、お堅い仕事を担当していました、その

NPO法人「シニア大樂(だいがく)に講師登録

のかたわら、ジョークを創作し発表する「ジョークサロン」という会に入っていました。また、若いころから落語を聴くこと、かくし芸程度に落語を演じたこともありました。

「楽習塾」の立ち上げ

六十歳定年退職後、自宅

に大人のための「楽習塾」を立ち上げました。趣味として集めた落語CDを聴いたり、本や資料を公開して同好の方と一緒に、気楽に、楽々と落語を道楽にしようと考えました。また、落語

つぎに、NPOシニア大樂に講師登録をしました。現役時代培った知識・経験を活かして、研修や講演で社会貢献できればと・・・

しかし、一年間

は「楽習塾」も開店休業、講師も余りお呼びがかからない。そんな時、東京スピーカーズクラブから「ユーモア話術入門講座・



落語の中の笑い」そして、東京都北区「おかみさん元気塾」から「落語に学ぶ商売の知恵」というテーマで講演依頼がきました。講演のやり方を私なりに工夫してみました。企業にいた時に培ったパソコンとプロジェクターによるプレゼンテーションで、見せるスピーチを、そのあとに落語一席をセットにした講演スタイルです。気楽で、楽しい「笑い」のある講演が大うけしました。おかげで、講師依頼が次々に飛び込んできました。講演テーマも多彩になり、「落語に学ぶスピーチのコツ・ツボ」「ユーモア『わ』術入門」「笑い与健康」「笑涯楽習のすすめ」といった「笑い」をテーマ

にした講演が得意です。さらに、シニア大樂の中に、シニア演芸団「演多亭」を旗揚げし、文京シビックホールや愛・地球博などで、落語・小唄を公演しました。

「三遊会(さんゆうかい)」でプロの噺家に落語を習う

また、ユーモアスピーチの会を通じプロの噺家(落語協会・真打三遊亭圓王師匠)との出会いがあり、師匠が主宰する「三遊会」に入会しました。プロから直接稽古をつけてもらい、芸名も「三遊亭圓塾」をいただき、ネタも増えました(現在 古典落語19席)。

(現在 古典落語19席)。社会人落語家として、老人ホーム、地方公共団体、企業などからもお呼びがかかり、月に3〜4回ぐらい高座にあがっています。活動の場が次々と広がりました。

地元八王子での活動スタート

去年は、地元八王子から声がかかりました。八王子

生涯学習コーディネーター会が主催する「笑いの大研究」に講師として呼ばれます。これをきっかけに、ユーモアスピーチの会・八王子支部を立ち上げた。それが縁で、ある町内の老人会に、老人ホーム、料亭の余興に、そして、いちようホールの大舞台にも上がり

ました。「八王子センター元氣」にも講師登録をしました。これからは地元にも「笑い」を通じ貢献していきたい。「楽習塾」「ジョークサロン」「ユーモアスピーチの会」、「シニア大樂」「演多亭」、落語の「三遊会」「四人会」、そして、「八王子センター元氣」など、「笑いのネットワーク」が出来上がったのです。このネットワークを通じ、様々な人との出会いを大切に、活動の場を広げ、自らも「笑い」を楽しみながら、「笑い」を通して多くの人に「笑われて」いきたいと思っています。(平井幸雄)

秋祭り、たのしみまショウ

老(煮)けていない高齢者

あふれる熱気、楽しいひと時

恒例の秋のイベントは、平成十九年十月三十一日

(水)、「秋祭り・たのしみまショウ」と銘打ち、八王子センター元氣と八王子ボランティアネットワークの共催で、八王子エルシィで開催されました。用意された二百八十席は完売となり、参加者も二百七十七名に達し、会場は熱気に包まれ、成功裏に終了しました

松嶋修さんの軽妙な司会で始まり、八王子センター元氣代表 鹿又ワカさんの主催者挨拶の後、八王子市長 黒須隆一さんから、「八王子の高齢者とかけて焼き芋と解く、そのころは、蒸(老)けていない」のナゾカケに始まり、出席者の今後の活躍を期待する旨のご祝辞がありました。

シルバートートルズのオカリナ合奏(ふるさと、北上夜曲、涙(ナダ)そうそう、千の風になって)、五姫会の民舞(よさこいソー

「笑いのある会話と落語」で、腹の底から笑いました。長年の研鑽と技のうかがわれる好演でした。

最後は、「みんなで歌いましよう」。伊藤涼子さんの音頭で大声を張り上げ、高潮したムードの中で、八王子センター元氣副代表 富永哲夫さんの閉会の言葉でお開きとなりました。

出演者紹介

シルバートートルズ

伊藤玲子さんをリーダーに、脇さん、石川さん、湯田さんの四人で結成されたオカリナ合奏団。

今後、施設慰問などを計画しています。



トウリーザ丘野さん

五姫会

十年前に、高木裕子さんを代表に五人でスタートし、今は十人に成長しました。

レパートリーは非常に広く、

南京玉すだれを初めとする多数の民舞のほか、手話踊り、健康体操、さらにはマジック、バルーンアートまで手を広げています。高O法人「シニア大楽」講師 年齢施設を中心に、各種団体、教育機関等で活躍しています。「げんき」第十一号にも紹介されています。

トウリーザ丘野さん シンガポールでの十年にわたる演奏活動、ラスベガスでの公演、京王プラザホテルでの定期演奏等、世界紹介させて頂きました。

第二回

明治 大正 昭和が集う歌の会

日時 平成二〇年六月六日(金)

午後一時開場

場所 いちようホール 小ホール

主催 八王子センター元氣

協賛 八王子市社会福祉協議会

で活躍されています。NP

O法人「世界の子どもネット」、

「国境なき楽団」に所属。

三遊亭圓塾さん

本名平井幸雄(たかお)

さん。サラリーマン生活三

十八年。現役時代の「ジョー

クサロン」、定年退職後立

ち上げた「楽習塾」、NP

O法人「シニア大楽」講師

登録、「演多亭」の旗揚げ

等を経て、三遊亭圓王師匠

の「三遊会」に入会し、プ

ロから直接稽古をつけても

らっています。社会人落語

家として、広範囲に活躍さ

わたり、本紙第二面

「講師紹介シリーズ」にも

初めての集客活動

いちよう祭りに参加

「わくわく広場」の

ステージを担当

八王子いちよう祭りは、八王子の伝統ある秋のお祭り、甲州街道周辺の銀杏並木を中心に展開されるイベントです。十一月十七日（土）、十八日（日）の二日間、街道沿いには本部を中心に屋台や出店が立ち並び、陵南公園では学生さんを中心とする出し物が催されました。長房市民センターを中心とする一帯も「わくわく広場」と名付けられ、さまざまな市民団体がイベントを繰り上げました。南浅川の河川敷では、数百メートルにわたって、すいとん、揚げパン、おつまみ等の食べ物、販売、野外ステージの「青空歌声喫茶」、各種大道芸の披露が行われました。長房市民センターでは

会議室・和室を利用して各種の展示会が行われ、体育室では、千人保育園の皆さんによる「たのしく遊ぼう会」、中・高校生による呈茶サービスとともに、ステージが設けられ、集客のための出し物が演じられました。この「わくわく広場」を主管するのが八王子市民活動協議会であり、八王子センター元気は、初めて、この体育室内のステージの運営を一任されたのです。準備は前日の夕方から始まり、ステージの設置の手伝い、放送設備のチェック、プログラムのセット、細かい作業はいくらでもありました。十七日（土）午前十時三十分、西山典明さんの司会

で「わくわく広場」のステージが始まりました。五姫会（いつひめかい）の花笠音頭で、華やかな幕開けです。南京玉すだれ、マジック、スーパードキッドメドレー（パラパラ）、東京ラプソディ（鳴子踊り）、マツケンサンバ、健康体操等二回の出演で、この日の前半は、五姫会のにぎやかさで埋まりました。その間、中野マジシャンズクラブのマジック、たのしく遊ぼう会のパネルシアター、橋口治夫さんの紙芝居をはさんで、後半の主演は、ハート&ハー



お客さんと一緒に

トです。ギター、アコーディオン、ラテンギターの演奏と歌で、二回も楽しませてくれました。ハート&ハーの後は、くるちゃん、ジャグリングで、二回の演技で子供たちを喜ばせてくれました。

一八日（日）は、午前十一時の開演です。たのしく遊ぼう会のパネルシアターが始まりました。午後は、グループ錦の独壇場です。錦見サツエさんの司会で、グループ錦の踊り（平成八王子音頭、箱根八里の半次郎、新秩父音頭、男の花道）、フラオレンジのフラダンス、グループ錦の津軽三味線と唄をとりまぜて披露してくれました。そして最後は、見物の皆さんにもステージに上がってもらい、ソーラン節、花笠音頭、炭坑節を賑やかに踊って、お祭りの最後を飾りました。

後片付けを終わった時には、すでに秋の日とはとつぷりと暮れていました。（渡辺重男）

編集員の記

漢字の歴史はいつからかはわかりませんが、解読すると全く現代に当てはまる言葉になっていることに驚く。一例として、若いの下に心と書いて惹かれると読む。私がセンター元気にこうして続けていることのできるのも、会員皆さん各自の人間的魅力と、心の若さに惹かれているからだと思う。（佐藤照雄）

ジョージ・アリヨシ元八ワイ州知事が、占領軍の若い将校であった昭和二十年の暮。寒風の中、一生懸命に靴を磨いてくれた七歳の少年に、感謝の気持ちをもってパンをプレゼントしたところ、三歳の妹のために持つて帰るといふ。これを聞いて、日本人の心は滅んでいない、必ず復興すると確信したそうである（日本経済新聞一月一八日夕刊）。金のためばかりで人のためにする福祉の心を忘れつつある日本は、復活するのでしょうか。（柴田忠寛）